
一人の少女

マッコリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人の少女

【Nコード】

N7532W

【作者名】

マッコリ

【あらすじ】

ある日、ナツ達は、依頼に行く、その時に何と、死んだはずのマイナがいた！！

マイナ

（どうして？私は、普通の子だったのに、あんな力があるから？私になんかあんな力いらぬのに：必要な力に：この世界から“魔法”なくなればいいのに。そのせいで私の人生が変わった！。）

???「うん。何にしようかなあ？」

???「ルーシィ、決まったか？今回はルーシィが選ぶんだ！」

???「約束だもんね」

ルーシィ「分かってるわよ」

???「決まったか？ルーシィ」

ルーシィ「エルザ！！！！」

エルザ「そろそろ、決めた方が、家賃が払えないぞ？なあ、ナツ」

ナツ「そうだぞ！ルーシィ」

???「悩んでないでとっとと、決めろ」

ルーシィ「グレイ！！！！」

グレイ「家賃が払えなくなるぞ！！！！」

ルーシィ「どうしたらいいですかあ？ミラさん〜」

ミラ「あっ！そうだ！ちょうどいい仕事があったのよ！人を探してほしいって！！」

????「人を？探すの？」

ナツ「おお！それ良いじゃねえか！！それにしよう！！なっ！ハッピー」

ハッピー「あい！！でも、どうやって？」

ナツ「さあ…？？」

ルーシィ「アンタの鼻で何とかならないの？」

ナツ「それだ！！！」

エルザ「とにかく行くぞ！！」

グレイ「行ってくる」

ミラ「そうそう！確かね、依頼主から彼女が持っていたものを、渡してくれたの！これ使ったどうかしら？」

ナツ「そうだな！！」

ミラ「いってらっしゃい！！」

森の中

ナツ「ここに匂いがした」

ルーシィ「えっと、名前が何て名前だったけ？」

グレイ「みてねえや」

ナツ「こっちだ」

エルザ「行くぞー!!」

数分後

ナツ「いた!!」

エルザ「声をかけるぞー!!」

ルーシィ「名前が書いてないわ」

エルザ「!!!こいつは!!!」

ナツ「どうした?エルザ」

ハッピー&ナツが、駆け寄った

ナツ「!!!お前!?!」

ハッピー「嘘!?!」

グレイ「なんかあったのか?!!!お前!?!」

???「久しぶりだねナツ、エルザ、グレイ、ハッピー」

ナツ「生きてたのか……」

グレイ「…………お前…確か、バルカンに…殺されたんじゃない…なかったのか……」

エルザ「どうしてだ!!生きているなら、早く言ってくれれば……」

ハッピー「…………皆…心配してたんだよ……」

ルーシィ「どうしたの?皆?この子でしょ?探してる子は」

エルザ「こいつは、依頼主に渡すわけにはいかん!」

ルーシィ「何で?この子でしょ!?探してる子は」

エルザ「こいつは、ギルドへ連れて帰る!……!」

ルーシィ「ねえ、誰……?この子……」

ナツ&ハッピー&エルザ&グレイ「こいつは、マイナだ!」

事実（前書き）

マイナとは誰なのか？

そして、マイナの実事とは！？

事実

ルーシー「マイナ…って、誰…？」

マイナ「初めまして…新人さん…よね…？」

ルーシー「あっ…はい…」

マイナ「私の名前は、マイナ。マイナ・グルーズよ。よろしくね」

ナツ「お前…生きて…」

グレイ「…本当に…生きて…」

エルザ「ありえん」

ハッピー「…何で…生きてるの…？」

マイナ解説

4年前

私は、ナツと、エルザと、グレイとハッピーと、仕事に行っていたわ

その途中で、私はバルカンに投げ飛ばされた…けど、私はその投げ飛ばされた後、リオンに助けられた…そこで、私はラミアスケイルに入った。

私はそこで仕事をしていた

「昨日、夜中にラミアスケイルをやめて、森の中をさ迷っていた
そこで私は倒れてしまった

今日、目が覚めて、ナツ達の声がして、私は、起き上がった

解説終了

ナツ「そんな事が……」

エルザ「と……とにかく……こいつはギルドへ連れて帰る……!」

ルーシー「う……うん」

グレイ「行くぞ……マイナ……」

マイナ「うん……行こう……ナツ、ハッピー、私は、ギルドへ帰るんだ
よ。また、一緒に仕事しようね」

事実（後書き）

次回は、キャラクター紹介です

キャラクター紹介（前書き）

今回は、キャラクター紹介です

キャラクター紹介

名前 マイナ・クルーズ

性別 女

特徴 紺色の髪と、紺色の瞳をしている。ちなみに髪はストレート。ルーシイと長さは同じ。

設定 年齢は12歳。性格は大人しい。あまり怒らない。4年前9歳の時、仕事中にバルカンに投げ飛ばされ、行方不明になり、後から死んだとされていた。だが、本当は、あの後、リオンに助けられて、ラミアスケイルに入った。

コウズ達とは、何か関係があるらしい。だが、彼女本人は、バルカンに投げ飛ばされたせいで、記憶がない。

魔法 雷と水の魔法

以上!!

キャラクター紹介（後書き）

変更とかあったら、また書きますね!!

家族（前書き）

マイナを連れ、ナツ達は、ギルドへ戻り、マスターと再会した。
果たして皆の反応は！？

家族

ギルド

ミラ「あっ！…ナツ達！…お帰りなさい！…」

エルザ「マスターは！？」

ミラ「えっ？」

エルザ「マスターはどこだ！…！」

ミラ「いるわ…あそこのカウンターにね」

マイナ「ミラ…ただいま」

ミラ「…！マイナ！…」

ざわざわ

マスター「なんじゃと！？マイナだと！」

マイナ「マスター…私…」

マスター「すまんかった…生きていたのじゃな…それなのにワシは…本当にすまない…」

マイナ「マスター、私、気にしてませんよ。」

マスター「!!」

マイナ「だって、こうやって私を受け入れてくれた。マスターは、フェアリーテイルの…私の親だよ…フェアリーテイルの皆は、私の家族だよ…この場所も、仲間も、皆家族だよ!!」

ルーシー「……………」

マイナ「ルーシーもね!! 私たちはもう家族なんだよ。たとえ離れていても、ずっと家族」

その時のマイナの笑顔は今まで、誰も見たこと無いほど綺麗な笑顔だった

家族（後書き）

次回予告

マイナも久しぶりに仕事をすることに！！
でも、何をすればいいの？

仕事

マイナ「ナツ！仕事行こう！！」

ナツ「おう！！何の仕事行くんだ？」

マイナ「ハコベ山へ行つて、ワイバーンの鱗をとってくるんだよ」

エルザ「いいではないか！」

グレイ「行こうぜ！！！」

マイナ「ルーシイも！！！」

ルーシイ「えっ！？」

マイナ「行こう！！！」

ルーシイ「うん！！！」

ミラ「決まりね！！！！いつてらっしやい！！！！」

マイナ「行ってきまーす！！！」

仕事中

エルザ「はあああああ！！！」

ナツ「おらああああああ！！！！！！」

グレイ「おりやああああ!!」

マイナ「とーーーーー!!」

ハッピー「あいさーーーーー!!」

ルーシィ「みんな…やりすぎよ!!」

仕事終了

ファンタジア前日

マイナ「いよいよ明日はファンタジアだね!!!」

ナツ「おお！忘れてた」

エルザ「ミスフェアリーコンテストもあるしな」

グレイ「マイナは出るのか？ミスフェアリーコンテスト」

マイナ「出ないよ!!!だって、ルーシィ出るでしょ？ルーシィが出たら負けちゃうし」

ルーシィ「そんなことないよ!!!マイナもいけるって!!!」

エルザ「去年は私が1位だった」

ルーシィ「2位はあたしで、3位がジユビアだったよね!!!」

マイナ「ジユビア？」

ルーシィ「フェアリーテイルの魔導士だよ!!!」

マイナ「そうだ!!!ウェンディが出たら出ようかなあ」

ウェンディ「えっ!?!私!?!出ないよ〜。まだ早いし〜」

マイナ「大丈夫よ!!!ウェンディ、私と同じ年でしょ？」

ウエンデイ「たしかに…」

マイナ「だから、一緒に出よう!…」

ウエンデイ「うん!」

ミスフェアリーコンテスト前編

ファンタジア当日

マイナ「うわぁー！！人が多いね〜！！」

ルーシィ「去年は大変だったわ〜」

ウエンディ「何かあったんですか？」

ルーシィ「うん…ウエンディが入る前に起こったことなんだ」

マイナ「へえ〜」

ルーシィ「ラクサスが来てね、マスターの座とか、なんとかで、勝
負してたの」

マイナ「ラクサス！？」

ルーシィ「うん。結果的に破門にされちゃったけどね…」

マイナ「そうなの…」

ウエンディ「何か、可哀想ですね…」

マイナ「うん…」

ルーシィ「あっ！！ミスフェアリーコンテストが始まっちゃっうー！！」

「マイナ」行こう！…ウエンデイ！…」

「ウエンデイ」うん！…」

ミスフェアリーコンテスト後編

マックス「今年もやって来ました！！ミスフェアリーコンテスト！
！今回は誰が優勝するのでしょうか？」

ワーーーー

マックス「まずはエントリーナンバー1！！マイナ・クルーズ！！
さあ、アピールタイムだ！！」

マイナ「えっと、私雷と水の魔法が使えるので、それをアピールし
ます！！」

ワーーーー

マイナ「雷水！！」

雷の中から水が出てき、弾いた

ワーーーー

マックス「じゃあ、エントリーナンバー2！！ウエンディ・マーベ
ル！！さあ、アピールタイムだ！！」

ウエンディ「私の天竜の咆哮をします！！」

マックス「え？」

ウエンディ「天竜の咆哮！！」

ウェンディの天竜の咆哮はきれいにハートになり弾いた

ワーーーーー

マックス「…つ…次はエントリーナンバー3！！エルザ・スカール
ット！！さあ、アピールタイムだ！！」

エルザ「換装！！誘惑の鎧！！」

エルザがセクシーになった

マックス「エントリーナンバー4！！ルーシイ・ハート」

ルーシイ「名前は言わないで〜！！」

マックス「アピールタイムだ！！」

ルーシイ「あたし、星霊魔導士なんで、色々な星霊を出して、特技
をしますー！！」

ワーーーーー

色々な星霊が出てきた

マックス「エントリーナンバー5！！ミラジエーン！！さあ、アピ
ールタイムだ！！」

ミラ「今回はサタンソウルになって、色々な技を出しまーす」

マックス「サタンソウル…？」

ミラ「サタンソウル…！」

マックス「次の人は、シャルルだ…！」

シャルル「フン！」

マックス「何をしてくれるのかな？」

シャルル「私、未来が見えるの、それを試してあげるわ」

マックス「ほう」

シャルル「例えば、そのアンタ」

「オ…オレ？」

シャルル「そう。あんた。今から、奥さんが来るわ。でもね、浮気がバレてしまう」

「まさか、そんなわけ」

「アンタ、浮気したね…」

「…！あたた…！」

シャルル「フン…！」

フー…

マックス「以上で、ミスフェアリーコンテストを終わります」

わーわー

ファンタジアのパレード（前書き）

ミスフェアリーコンテストが終わったら次はファンタジアのパレードだよー！

ファンタジアのパレード

夜

パアン

パアン

ワーーーー

「ミスフェアリーコンテストに出てた女の子達だ!!」

「かわいい!!」

「あつ!!ミラジェーンだ!!」

「えっ!!あの週ソラの!？」

「エルフマンもいる!!」

「すごい!!」

「おお!!鉄竜くろがねのガジルだ!!」

「すげえ!!」

「マイナだ!!」

「可愛い!!」

「久々に見たよね〜!!」

「ああ!!マスターだ!!マスターが出てきたー!!」

「面白〜!!」

こうして、ファンタジアは終了!!無事にね

怪物倒しの仕事

マイナ「ナツ。仕事いかない？いい仕事があるんだ〜!!」

ナツ「おお!!良いな!!行こうぜ!!」

ハッピー「あいさ〜!!」

マイナ「ルーシィ達も行くよね?」

ルーシィ「うん!!」

グレイ「勿論だぜ!!」

エルザ「ああ!!!!」

ウエンディ「はい!!」

シャルル「フン!!」

ハッピー「ところで、何の仕事行くの?」

マイナ「これだよ!!」

ルーシィ「怪物を倒して、80万ジュエルJ?」

ウエンディ「怪物倒しかあ…大変そう…」

マイナ「皆で、力を合わせれば倒せるよ!!…」

エルザ「ルーシィ、家賃払えるな!!」

ルーシィ「うん!!」

グレイ「結構払えるよな」

ハッピー「じゃあ、行こう!!」

シャルル「そうね」

マイナ「ミラ、この仕事、行ってくる!!」

ミラ「ええ。行ってらっしゃい!!」

馬車の中

馬車の中

ナツ「うふう…気持ち悪…」

マイナ「相変わらず乗り物酔いだけは、治らないのね…」

ウエンディ「トロイアかけましようか？」

ハッピー「マイナ。どこまで行くの？」

マイナ「ああ。確かハコベ山だったよ！」

ルーシィ「ハコベ山？」

グレイ「マイナ…一応聞いておくが…怪物倒して、ワイバーン？」

マイナ「うん！そうだよ！」

エルザ「私達はこれで2回目だ…」

マイナ「えっ！？嘘！？2回目！？」

グレイ「ああ…ウエンディもだよな…」

ウエンディ「はい…」

マイナ「そうだったんだ…」

ルーシィ「でも、今回は、草を取ってくるんじゃないんでしょ？」

マイナ「うん！ワイバーンを倒すだけ！」

ルーシィ「だったら良いじゃん！報酬も良いし！」

グレイ「だな！」

マイナ「ここで降りるよ！！」

ルーシィ「まだ着いてないのに？」

マイナ「ここは、山の手前ここから、歩くの！！」

ウエンデイ「ええ！！」

ルーシィ「寒いのに！？」

マイナ「馬車はここまでしか走れないのよ」

ルーシィ「そんなあ……」

マイナ「さっ！行！行！行！！」

山の中(前書き)

ワイバーンと戦うのは…もつちよっと先ですね…

山の中

ルーシィ「マイナ。機嫌良いわね…」

エルザ「久しぶりの仕事だからじゃないか？」

グレイ「そうだな…」

ウエンディ「寒いです…」

ルーシィ「開け！時計座の扉！！ホロロギウム！！」

ルーシィ「はあ…」

ウエンディ「あったかそうですね」

ルーシィ「うん…ウエンディも入る？」

ウエンディ「えっ！？良いんですか？」

ルーシィ「うん…」

ウエンディ「じゃあ、お言葉にあまえて…」

マイナ「寒くないよ…」

ウエンディ「そう？寒い…」

マイナ「大変ね…こつこつとこつと来ると…」

ナツ「そうだなー!!」

ハッピー「あいさー!!」

グレイ「だなー!!」

エルザ「ああ。」

マイナ「さあー!!進むぞー!!」

山の中（後書き）

次回予告！！！！

ワイバーン倒しに行ったマイナ達。

ちゃんと道に迷わず、ワイバーンの元へたどり着けるのか！？

ワイバーン倒し

ナツ「……ワイバーンだ……！」

マイナ「えっ！？こんな早くに！？」

エルザ「とにかく戦うぞ……！ナツ……！グレイ……！マイナ……！」

ナツ「おう……！」

グレイ「言われなくてもやんよ……！」

マイナ「うん……！」

ルーシー「皆頑張ってる……！」

ウエンディ「ファイトです……！」

ナツ「火竜の咆哮……！」

エルザ「はああああ……！舞え……！剣たち……！」

グレイ「うおおおおお……！アイスメイクハンマー……！」

マイナ「やあああああ……！雷水柱……！」

ルーシー「やった……！」

マイナ「やったね……！」

ハッピー「依頼主のところに届けに行こうー!!」

ウェンディ「うん!!」

そして、報酬ゲット

ルーシー「家賃が払える!!」

マイナ「良かったね!!ルーシー」

ルーシー「うん!!」

こうして、径物倒しの仕事は終わった

仕事する人といつも通りの人(前書き)

天狼島にジャンプします!!

仕事する人といつも通りの人

マイナ「仕事行って来る!!!」

ミラ「行ってらっしゃい!!!」

ナツ「仕事仕事オ〜!!!」

ハッピー「あいさー!!!」

ルーシィ「ちょっと!!!仕事ならあたしも」

ナツ「悪い!!!この時期は一人で行く」

グレイ「ただいまあ!!!」

ミラ「おかえり!グレイ服は?」

グレイ「それどころじゃねえ!!!次の仕事だ!!!」

エルフマン「姉ちゃん!!!オレは、この仕事行ってくる!!!」

「仕事仕事オ〜!!!」

「うおおおっ!!!」

「オイ、てめえ、それはオレが先に!!!」

「知るかよ!!!」

「チームシャドウ？ギアはこの時期解散だあ！！！」

ルーシィ「何事なの～～！？」

ミラ「直にわかるわよ」

ウエンディ「予知能力！？」

シャルル「そ、女王が言つてたでしょ？私にも未来を予知する能力があるって！！意識するようになってから少しだけコントロールできるようになったの」

ウエンディ「すごいねシャルル！！」

リサーナ「ねえ？私、将来誰のお嫁さんになるの？」

シャルル「そんなに先の未来を見るのは無理。そうね……たとえば、そこにマカオがいるでしょ？もうすぐワカバが来てギルドの若者について会話が始まるわ」

ワカバ「よオ、マカオ」

マカオ「オウ」

ワカバ「今年もこの時期が来たねえ」

マカオ「懐かしいモンだな」

ワカバ「オレらも若エ頃はな」

マカオ「燃えてた時もあったよな」

ワカバ「今の若エモンはすげえよ、実際ケツとか」

マカオ「ケツかよ!!」

ワカバ「あれ？おまえ、チチ派？」

マカオ「オレア、ガキいんだぞ！若エ女のケツ見たってよう」

ワカバ「足ならどうだ？」

マカオ「そ…そりゃかぶりつきてえ!!!つか、踏まれてえ!!!」

マカオ？ワカバ「だははは」

リサーナ「すごい!!!本当に当たった!!!会話の内容はひどいけど…」

シャルル「こんなの予知しても仕方ないけどね」

ウエンディ「でも、すごいよシャルル!!!」

リサーナ「うんうん」

シャルル「それにまだ、完全にはコントロールできないの」

キイン

エルザとリリーが剣さばき？みたいなものをしている

エルザ「ここまでだ」

リリーは小さくなった

リリー「ふう…元の体でいられる時間は短いな」

エルザ「しかし、たいしたものだ、見事な剣さばき」

ガジル「どーだエルザ！！これがリリーの実力だぜ！！！」

リリー「いやいや、さすがはエルザといったところだ。これがこのギルドのS級と呼ばれる力か」

ルーシィ「なんかせかせかと仕事する人もいれば、まーったくいつも通りの人もいて何が何だか…」

ミラ「明日になればわかるわよ」

とってミラは依頼を整理した

S級魔導士昇格試験出場者発表

翌日

ルーシィ「うわ…すごい人数」

「ギルドのメンバーほとんど集まってるみたいだよ」

リリー「何の騒ぎだ？」

ガジル「さあな」

ウエンディ「マスターから何か重大発表があるんだって」

シャルル「興味ないわ」

ナツがそわそわしている

ハッピー「ナツ。落ち着きなよ」

グレイ「フン」

カナは、何やら悲しい顔をしている

マイナ「誰かなあ今年は」

ルーシィ「やっと秘密が分かる」

ジュビア「ジュビアドキドキします。 그레이様を見てると」

ルーシィ「あんたもう帰れば？」

ザッザッ

マスターが登場し、続いてエルザ、ミラ、ギルダーツが登場した。

「マスター！！」

「待ってましたー！！！！」

「早く発表してくれ！！」

「今年は“誰”なんだー」

マスター「コホン、フェアリーテイル古くからのしきたりにより、これよりS級魔導士昇格試験出場者を発表する！！！！」

皆ざわつき始めた

ルーシィ「S級魔導士昇格試験！？」

ナツ「燃えてぞおーーーー！！！！」

マスター「今年の試験会場は天狼島。我がギルドの聖地じゃ」

「おおーーーー！！！！」

ルーシィ「試験って何するの？」

「そりゃ毎年違っけど」

「ハードな事には変わらないよ」

「何せ合格者はS級魔導士になれるんだから」

マスター「各々の力…心…魂…ワシはこの1年見極めてきた…参加者は9名

ナツ？ドラグニル」

ナツ「おっしやあ！！」

ハッピー「やったね！！ナツ」

マスター「グレイ？フルバスター」

グレイ「やっとこの時が来た」

マスター「ジユビア？ロクサー」

ジユビア「えっ？ジユビアが？」

マスター「エルフマン」

エルフマン「漢たるもの、S級になるべし！！」

リサーナ「がんばってねエルフ兄ちゃん」

マスター「カナ？アルベローナ」

カナ「……………」

マスター「フリード？ ジャスティーン」

フリード「ラクサスの後を継ぐのは……」

マスター「レヴィイ？ マクガーデン」

レヴィイ「私………とつとつ」

ジェット&ドロイ「レヴィイが選ばれた……！」

マスター「メスト？ グライダー」

「メストだ……！」

「去年は惜しかったよなー」

マスター「マイナ？ クルーズ」

マイナ「やったー……！」

「うわぁ〜今年もダメだった〜」

「来年があるわよアルザック」

ジェット「レヴィイが選ばれたー……！」

ドロイ「ひゃっほ………い………！」

「ついにナツがきたぜ」

「グレイもだ」

「マイナもスゲー!!」

ルーシィ「そっか………このメンバーに選ばれたいから皆、自分を
アピールしていたのね」

ウエンディ「うわぁ。みんながんばれー」

ルーシィ「あれ？（そっいえばこれがギルドをやめたい理由？）」

マスター「今回はこの中から合格者を一名だけとする」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7532w/>

一人の少女

2011年12月7日02時48分発行